

市民連合

山梨 ぐんないニュース

第 32 号

2026 年 4 月発行

発行 市民連合 ぐんない

共同代表 知見邦彦

3/12 全員会議 憲法改定発議 NO 若者と対話しよう

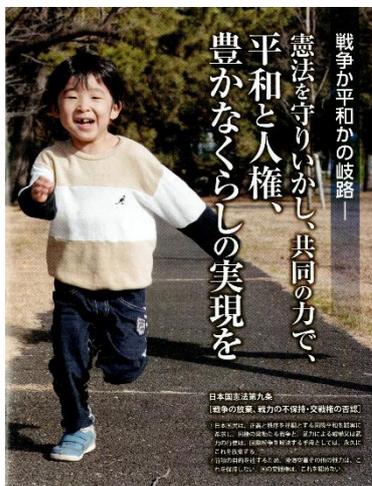
平和憲法を失う先の社会を 殺しあう戦場の現実を

3/12、猿橋支所において、市民連合ぐんない全員会議を開催、衆議院選挙での高市・自民党の大勝後の、憲法改定発議をはじめ、安保関連3文書の年内改定など、急速な戦争への動きに対し意見交換した。

「日本国憲法の最重要な特徴は何だと思う？」との問いかけに、「平和じゃない？」との声が多数、民主主義や人権も大切だが、何より平和。この平和条項の改悪と戦争準備が高市・自民党の最大のねらいなのだ。

一方、右傾化と戦争への流れに対し、いわゆる”無関心層“が多く存在する。高市自民が選挙で大勝したのは、そのおかげだ、と言われている。特に若い方々だ。実は、改憲発議を止められるか否かは、かれらの動向にかかっているのだ。

「学生困窮 生活切り詰め 8割『お金不足』 県内団体『支援強化』」(山梨日々新聞 3/10) と報じられている多くの



若者は、生活できないほどの貧困に直面している。そういう彼らとどのように対話をしたらいいのか？

議論では、食糧支援ができるか検討してみよう、そのなかで対話の糸口を見出そうと。

彼らと どう対話していったらいいか？

対話で大切なのは、①切実な要求を大切に、そしてそれを実現するには？との対話に発展させる。

②常識を共有して、そこから議論、例えば“核抑止力”の是非について、核兵器が非人道的だという常識から出発することが大切。また戦争は避けたいとの常識を共有することが大切。

幅広い団体と憲法・学習講演会共催

各地の憲法九条の会や諸団体と共催し護憲の大切さ、改憲の内容と狙いなどを学習し、対話のきっかけづくりとする。

渡辺敦雄さん「高市首相の『原子力規制委員会が安全確認している』との発言はウソだ」と「赤旗(3/12)」インタビューで語る

市民連合ぐんない会員の渡辺敦雄さんが、高市首相の発言のウソを暴いた。規制委員会は「原発の安全を保証していない」と明言しているのに、首相は安全確認していると言ったのだ。

2026
情報・建築はファス03-3550-1904 メールhemsyukoe@jca.or.jp 事務局特チームまで

焦点・論点

首相の「規制委が安全確認」は虚言



元原子炉設計技術者 渡辺 敦雄さん

高市早苗首相は2月の施政方針演説で「原子力規制委員会により安全性が確認された原子炉の再稼働加速に向けた方針を掲げ、官民を挙げて取り組む」と再稼働推進の姿勢を示した。元原子炉設計技術者の渡辺敦雄さんは、規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

首相の演説は、政府の原子力政策の方向性を示すものであり、規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

規制委員会は、原子力規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

規制委員会は、原子力規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

規制委は「安全を保証しない」と明言 誰も安全性確認できぬ再稼働不可能



東京電力柏崎刈羽原発新増設、2017年



規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

規制委員会は、原子力規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

被災者の声を聞いて

被災者の声を聞いて、規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

被災者の声を聞いて、規制委員会の安全性確認などについて、首相の演説は虚偽に基づいていると指摘する。(田中佐知子、中組寛一)

「さよなら原発」 2026 山梨集会

福島原発事故から15年 3月15日 甲府よっちゃんばれ広場

第15回さよなら原発2026山梨集会が甲府よっちゃんばれ広場で開催され、キッチンカー、ブースが出展され、200人ほどのにぎやかな集会だった。当会からは私（知見）1人の参加。



福島県浪江町を訪問した実行委員メンバーが現地の実情を報告した。

集会は「政府に原発を廃止し、再生エネルギーの転換を求め

る」アピールを採択、市内を「原発いらない」とコールしながらパレードし東京電力甲府支店に届けた。

椎名慎太郎実行委員長（山梨学院大名誉教授）は次のように話された。

「原発事故から15年たっても廃炉のめどがたたない。残存放射能により、今でも、帰りたくても帰れない地域がある。放射能のうち、セシウム137は半減期が30年、1000分の一になるまで300年もかかる。（半減期が30年なので、30年後→1/2、60年後→1/4、90年後→1/8…というように減っていく）今、日本に14基の原発があり、9基が稼働している。西日本に多い。南海トラフなどの大地震がこれらの原発を直撃するかもしれない。西日本が壊滅するほどの被害がでるとの予測もできる。

私たちは、原発ゼロを訴え続けよう！原発を廃止し再生エネルギーへの転換を求めよう！」

我が国をとりまく危機は、戦争危険、原発を含エネルギー・環境危機、長期停滞の経済危機の三つで三重苦だ。どれひとつ軽視できない最重要課題だ。

15年前の福島を思い起こそう

15年前、福島でひとつ間違えば、東京を含む関東一円が被ばくした。米軍は横須賀基地の被害を恐れた。日本経済に与えるショックにおびえた。原発は稼働させない！と誓った。

しかし今、9基も稼働している。規制委員会は稼働している原発の安全は保証していない。

原発を止め、平和を守り、経済を立て直す3課題を前にすすめるため、がんばらなくては！

「逆さまの全体主義」？「キリスト教帝国アメリカ」？

米トランプ大統領の“やりたい放題”の現状について宗教者の雑感

賛同人 白戸 清

2月28日、アメリカはベネズエラに続いて、今度はイスラエルと共に宿敵イランへの突然の軍事攻撃をはじめ、最高指導者ハメネイ師や幹部らを殺害、新たな戦争を起こした。

3月21日現在、ホルムズ海峡が事実上閉鎖され、互いの攻撃も続いている。トランプ大統領は勝利を楽観視しているようだが、イスラエルとの違いもあり、イランは湾岸諸国の米軍基地関係に報復攻撃を行うなど、ある人は戦争が泥沼化していると指摘している。

平和憲法を持つ我が国は、この戦争収束のために、どのような役割を担えるだろうか。高市首相が米国に訪問してトランプ大統領と会談し、彼を持ち上げて表面的にはトランプを怒らせずに終えたというが、イランはどう反応するだろうか。今後も予断を許さない状況が続いている

「キリスト教帝国アメリカ」への問いと希望—アメリカの〈明白な使命〉とは？



前回は触れたが、アメリカ合衆国建国の背景には聖書、そしてキリスト教（教会）があり、それを一聖書理解の違いが対立をもたらしている現実があるが一知ることなしには、世界最大の軍事力を誇り、その動向が全世界に多大な影響力を及ぼす米国の実情を理解することは難しい。

建国前後のアメリカは先住民族と共存していたが、やがて交わした諸条約を破り、果てには彼らを虐殺してきた歴史のある「移民たち」によって成り立つ国である。

主に白人たちによる国家形成は、豊かさや能力を追求し、教会もその歴史に大きく関わってきた。米国キリスト教の主流は大まかに言うと、人生で成功することが良いことであり、より豊かになり金持ちになること（トランプのように）それが聖書の福音を信じて生きる者への神の報いだと信じている。

だが果たして、キリストの福音を信じて生きるとは、本当にそのようなことだ

ろうか。軍事力をはじめ、さまざまな力と富を誇る政治と結びついたアメリカのキリスト教によって、本来良い意味の大切な言葉「福音」が建国時から現在までの米国内外の戦いの歴史を通じて、歪められてしまっているのではないかと思う。

私の手元に神学校の同窓生である栗林輝夫（故人）著『キリスト教帝国アメリカブッシュの神学とネオコン宗教右派』と題する書物がある。アメリカの教会はキリスト教（聖書、福音）信仰を自分に都合よく解釈し、信じた末、自らが「**神に選ばれた特別な使命を持つ**」国であって、かつ覇権主義「帝国」であることを自負することに何ら矛盾を感じない国である。

アメリカは（聖書の）神が自国に与えた「**明白な使命（マニフェスト・ディステニー）**」によって立つと信じて国を形成してきた。しかし謙虚な思いで祈りつつ聖書を素直に読めば、イエス・キリストという救い主は絶対的な権力を持つ王ではなく、むしろ、この世の為政者が求める権力、名誉、軍事力などとは無縁で、神と敵をも含む隣人への愛と平和こそ、人間の生きる道であると教えて生き、苦しみを受け、十字架で殺され、そして復活したと聖書は語る。ちなみに毎年変わる復活祭（イースター）は今年は4月5日である。

現実には少数であるが、アメリカには白人に対して非暴力を貫いて、黒人差別からの解放、黒人の人権回復に生涯をかけ、暗殺されたマルチン・ルーサー・キ

ング牧師のような人がいる。彼のような生き方こそ、真実の福音信仰だとする教会が存在している。

実際、ベネズエラとイラン攻撃に対して教会関係の団体から、抗議声明も出ており、新聞では報道されないが、日本でも同様の動きがある。

アメリカには MAGA 派のトランプ支持の教会だけでなく、武力によらない平和を愛し、作り出そうとする良心的なクリスチャンの集まる教会が存在しており、アメリカが真の民主主義国家として再生することに、私は希望を持っている。



おわりに、

以上、思わぬ機会を頂き、思いつくまま三回にわたって記したが、言葉が足りず、わかりづらい事柄や内容があったかもしれない。そのことにお許しを願いつつ、拙論が皆さんに少しでも、聖書やキリスト教信仰への関心と理解と深めるきっかけになればと願っている。

最後に 聖書から平和に関して述べられているキリストが語った言葉のいくつかを紹介する

新約聖書より

平和を実現する人々は幸いである
その人たちは神の子と呼ばれる
しかし、私は言うておく。敵を愛し自分を
迫害する者のために祈りなさい。
その家に入ったら「平和があるように」と
挨拶しなさい
剣を鞘に納めなさい
剣をとる者は皆、剣で滅びる
(復活後に)「あなた方に平和があるように」

ニュース第 30 号の訂正と追記

P3 左 上から 5 行目 「グアテマラ」を
「ベネズエラ」へ

P4 左 上から 3 行目「民主主義国家」へ
下から 2 行目「ドンロー主義」へ
右 上から 10 行目 (1494) へ

尚、最初に紹介したノーマ・フィールド氏については、私と同年の 1947 年に日本で生まれた方であることを追記します。

50 年代に始まる日米繊維協議、80 年代の半導体協議。

日本が 頭をもたげると 必ず叩いてくるアメリカ。

今日の私たちの苦難は 元をたどれば、日本を下僕のようにみて、使い倒してきた アメリカの対日政策にある。

今回のホワイトハウスでの 一連の興行は、そのことを見事にわからせてくれた。

よっ、トランプ、千両役者！
太鼓持ち さなえに おひねり！

市民連合やまなし 共同代表 倉嶋清次

THE WHITE HOUSE
WASHINGTON

Takaichi deliver remarks in the the State Dining Room

